



コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会を開催

九州森林管理局では、低コスト造林の推進の一環として、マルチキャビティコンテナ苗の国有林・民有林の時期別の需要量と各県苗組の出荷体制等を調整する「コンテナ苗供給調整会議」と各県の生産者が更なる育苗技術を向上するための「生産技術向上検討会」を7月28・29日の2日間、九州各県の樹苗生産組合、県林務担当者、森林総合研究所、林木育種センター、日本林業技術協会、当局の職員など約100名が出席して都城市で開催しました。

コンテナ苗供給調整会議では、冒頭、大政康史森林整備部長から「現在、九州各地において大型木材工場やバイオマス発電所などが建設され、再生可能な木材資源についての関心が高まる中、次の世代を考えながら山づくりを行うことが重要であり、



会議の様子

今後も再造林を一層促進するため、大苗にも対応できる300CCのマルチキャビティコンテナ苗を積極的に導入して参りたい」と挨拶。古閑博行森林整備課長から今後増加する苗木需要対策への取組(押し木用スギ採穂の情報)について説明を行い、今年度と来年度の各県苗連の出荷量を基にした供給計画について苗木の調整を行いました。その結果、来年度の民有林・国有林の苗木需要は昨年度以上に要望があることから、各生産者へ増産の要請を行いました。続いて各機関の研究者も加わった生産技術向上検討会に移行し、同部長より「関係機関、各生産者等からの生産技術のご紹介を賜りながら、情報共有し更なる課題解決に取り組んで参りたい」と挨拶。その後、甲斐博文技術普及課長から技術開発に

おける状況説明、全体でのコンテナ育苗技術の意見交換、関係機関等から話題提供として、森林総合研究所から「全国調査からみた苗木供給体制の現状」、宮崎県林業技術センターから「宮崎県内のコンテナ苗の生産状況と研究紹介」があり、当日の日程を終了しました。

翌日は前日に引き続き、生産者を代表して鹿児島県砂田樹苗園から「苗木生産者による生産技術の紹介」、林木育種センターから「エリートツリー及び特定母樹について」の発表を頂き、その後、全員で宮崎市にある長



現地検討会の様子

局長交代 川端 前 局長は 林野庁国有林野部長へ 後任は 瀧上 前 経営企画課長

8月7日付で川端省三前局長が林野庁国有林野部長へ転出し、後任に瀧上和之・前林野庁国有林野部経営企画課長が就任しました。新局長の略歴は次のとおりです。



ふちがみ かずゆき 瀧上 和之

- (福岡県出身：56歳)
- 昭和58年4月 農林水産省入省 (林学)
- 平成18年4月 広島県農林水産部 農林整備局長
- 平成20年4月 広島県農林水産局農林整備部長
- 平成21年4月 林野庁森林整備部研究・保全課 技術開発推進室長
- 平成22年7月 林野庁林政部木材産業課長
- 平成25年4月 林野庁国有林野部業務課長
- 平成26年4月 林野庁国有林野部経営企画課長
- 平成27年8月 現職

倉樹苗園の苗畑に移動して現地検討会を開催し、出荷前の苗木の管理や当局での研究の取組状況の説明等を行い、全日程を終了しました。(担当)森林整備課 技術普及課

綾の照葉樹林プロジェクト会議 事業報告及び事業計画を確認・承認

6月30日に宮崎県綾町役場において、「綾の照葉樹林プロジェクト（略称：綾プロ）」の第22回連携会議が、九州森林管理局、宮崎県、綾町、公益財団法人日本自然保護協会、一般社団法人てるはの森の会の関係機関5者が出席し開かれました。

会議の冒頭、河野耕三てるはの森の会代表理事は「綾プロも大きな節目である10周年を迎えた。これから10年もさらに協定5者が連携・協働して取組んで

行きましよう」と挨拶しました。

会議は、協定5者から平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画（案）が報告・提起され、満場一致で確認・承認されました。

また、事務局から5月17日に10周年記念行事として開催された「新緑の森へ行こう」についての事業報告や日本自然保護協会より新たな保護地域制度「IUCN保護地域グリーンリスト」について説明がありました。



プロジェクト会議の様子

最後に綾プロも10周年を迎え、今後開催される記念行事も含めて、協定5者が一丸となり取り組むことが確認されました。
(担当：川端省三)

海岸林の取締・巡視員 委嘱状交付

【宮崎森林管理署】 宮崎市の一ツ葉海岸林（前浜国有林94林班）において、ゴミの不法投棄や入林者へ「林野火災防止」の呼びかけやマツ等の不法採取などの監視や取締りを委嘱するため、6月30日、当署長室において、

「檜（あおき）振興会（会長 児玉久夫氏）」の6名に委嘱状を交付しました。（委嘱期間平成27年7月1日から平成28年6月30日）



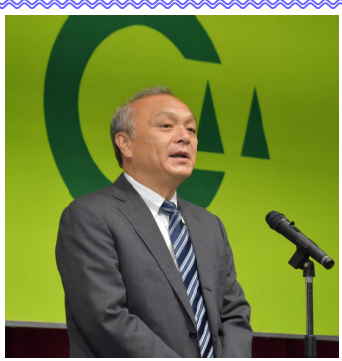
署長と檜振興会のみなさん

なお、「檜振興会」は、長年にわたり一ツ葉海岸林内の監視や取締活動のほかマツの植栽や

転任挨拶

九州局の更なる取組に期待する 前九州森林管理局長 川端省三

川端省三局長が、8月6日大会議室において、局職員に対し転任の挨拶を行いました。



8月7日付けで、林野庁国有林野部長へ異動することになりました。職員の方々には大変お世話になり、ありがとうございました。

平成25年4月の着任時皆さんに、一般会計化にあたり、九州局の先進的な取組みが、一般会計へ移行する大きな方向付け

になると共に、外部の方々に対し説明していく中で重要になってくる、ということをお話したと記憶しています。

こちらに来て、皆さんと一緒に全国のトップランナーとして、九州局の先進的な取組みを更に推進すると共に、課題解決に向けて取組み、また、新しい課題について種を播いて育てていこう作業を行ってきました。

今年度は、一般会計化後3年目を迎えますが、3年目4年目の取組みが、今後の大きな鍵となります。

そういった局面での九州局の取組みが、国有林の評価を高めていくこととなりますし、そういったことを解決してくれるところだと確信しています。

トップランナーとしての悩みもあるかもしれませんが、是非しっかりと取組みを進めていただきたいと思います。

明日からは、国有林野部長として、皆さんのやる気あふれる取組みを全国に届けながら、全国の森林管理局を一つの家族として、みんながそこに向かって行けるような組織にしたいと

考えています。

九州局は、皆さんの力で順調に進んでいくものと思っておりますが、これから次の局面へ向かう時期にもなりますので、皆さん方の忌憚のないご意見をいただき、国有林全体を盛り上げる、全国を引っ張っていくという気概を持って業務を行っていただきたいと思います。

終わりになりますが、どうか皆さん、ご家族共々お元気で、体気をつけて頑張って下さい、2年4箇月本当にありがとうございました。

第19回「森の塾」を開講

熊本県内の小学校教諭が参加

8月3日、監物台樹木園において、熊本県内の小学校教諭が11名参加し、第19回「森の塾」を開きました。

「森の塾」は、森林・林業に対する理解と認識を深め、森林環境教育における知識や技術を教育現場で活かしていただくことを目的に毎年行っているものです。

今回は、エリートツリーコンテナ苗や一貫作業システムなどの低コスト再造林の取組について紹介したほか、「シカ被害の現状と対策」と題し、シカの生態やシカによる農林業被害等の実態と課題、当局の取組状況の説明の後、「シカと森林のカード」を使用して、森林とシカの生態について学んでもらいました。

また、実習では、園内散策、植物鑑定、木工品作りはツボ押し器を制作しました。

参加者からは「ユーモアを交えた樹木の説明がもしろい」「講義では林業の現状がわかり、楽しみながら自然と木のことがわかるいい企画だった」「この

ような機会を今後とも続けていただきたい」「環境保全という視点から、もっと子どもたちに森林や林業について、詳しく説明、指導していきたい」等の感想が寄せられました。

(担当：技術普及課)



作成したつぼ押し器を手に記念撮影

高校生に林業体験学習

【宮崎南部森林管理署】宮崎県立日南振徳高校生15名が三ツ岩林木遺伝資源保存林において、飼肥スギ造林の歴史について林業体験学習を行いました。

この体験学習は、次代の担い



林業体験学習に参加した高校生

手である高校生を対象に森林・林業・木材産業への理解を深めてもらうことを目的に、毎年、宮崎県林業労働機械化センターの依頼を受けて実施しています。当日は、飼肥林業の歴史や、昭和40年代にピークを迎えた弁甲材生産の状況などを説明し、その後、三ツ岩林木遺伝資源保存林内を散策しました。

職員から、「このスギの木は立派に見えますが中は腐食しています」とか、「下層木であるアオキがスギ造林の指標植物である」などの説明に対して、熱心にメモをとりながら聞いていました。

参加した生徒の中から、宮崎県の林業を担う人材が育つことを期待して、林業体験学習を終りました。

シカ被害対策に係る意見交換会を実施

林野庁「シカ被害対策推進プロジェクトチーム」

林業の成長産業化を実現する中で最大の課題となっているシカ被害軽減に向けた効果的な取組を推進するため、本年4月

林野庁に「シカ被害対策推進プロジェクトチーム」が設置されたところであり、7月28日、九州森林管理局大会議室において、林野庁プロジェクトチーム4名、九州各県のシカ対策担当者22名、森林総合研究所等から4名、当局管内シカ対策担当者多数の出席のもと、現状・対策等の報告と意見交換を行いました。

まず、林野庁からは全国のシカ被害の現状と国が実施している被害対策等について説明があり、続いて、九州森林管理局の被害対策の取組、各県の森林被害の現状と対策の取組、森林総合研究所における被害対策の取組について報告がありました。

報告では、各県ともに樹木に対する食害や剥皮被害、その影響による林地荒廃など被害が拡大している現状と国だけでなく県独自の交付金を活用して防護柵、ネットの設置、有害鳥獣捕獲の実施や効果的な捕獲方法の

研究及び関係部局と連携した対策により被害対策に努力していることが報告されました。

意見交換では、国が助成している交付金や森林整備事業の積極的な活用、五島列島の林地荒廃に対する対策、間伐材を利用した剥皮害防止の効果、シャープシューティングによる捕獲の問題点と対策、未侵入地に対する初動対応等について、意見の交換等を行うとともにプロジェクトチームと各県担当者の個別打合せを行いました。

(担当：保全課)



意見交換会の様子

芦北高校生へ林業実践体験研修を実施

8月4日、熊本県が実施する、平成27年度地域林業実践体験推進事業の委託を受けた、水俣芦北森林組合の依頼により、熊本県立芦北高校林業科2年生4人に対し、実践体験研修を行いました。

研修では、午前中監物台樹木園において、技術普及課永山博美企画係長、鶴田千華係員により「森を知る」と題して講話を

行いました。

最初は緊張した様子の研修生でしたが、ゲーム「私は誰でしょう」や「シカカード」を体験するうちに緊張もほぐれ、昨年は植生等が全滅した「シカカード」も今回は植生が守られると、笑顔で喜んでいました。

その後、園内を散策し樹木の種類と構造について講話を受けたとともに、三角定規を使った



私は霧島の麓、宮崎県小林市に住み、ニホンミツバチの養蜂を行っています。一昨年の10月に『地域おこし協力隊』という制度を利用して東京都から移住しました。3年間の任期つきで、



田地 祐造さん

小林市の活性化と移住促進の活動を行い、任期終了後の定住を目指しています。

移住した理由は、自然の豊かなどところで生活したかったこと。産まれも育ちも東京のど真ん中で、森や川遊びの経験もごく少ないのですが、年を重ねるに連れ、自然の中で過ごす休日に充実感を感じるようになったことです。

定住するため、生計を立てるために養蜂を始めています。移住前に東京の商店街でニホンミツバチの養蜂を始めました。そのうちミツバチが大好きになり、いつか本物の自然の中の養蜂をやると決めていました。しか

二酸化炭素測定を実践しました。午後からは、局研修室に場所を移し、迫口親保全課長より「国有林の役割と森林管理局の組織について」、中山浩次業務管理官より「森林・林業・木材産業の現状と課題」と題した講話を行いました。

迫口課長の講話では、九州国有林の現状や役割、九州森林管理局の組織や取組事項などについて、自身の体験談を含めて話がありました。中山業務管理官からは、森林、

し実際は困難の連続です。

山で遊んだ経験も少ないので、山に入るのも「苦勞、ヤマビル・マムシ・マダニ・スズメバチ、怖くてビビってちょっとずつしか進めないし、滞在時間もなる

林業、木材産業それぞれに対する、現状と課題の説明とともに、地球温暖化対策や林業産出額、林業従事者の推移、木材需給の動向、木質バイオマスの利用など幅広い内容の話がありました。

今回の研修を受けて、研修生には、国有林の業務を少しでも理解いただき、今後の国有林野事業に携わるきっかけになってもらえればと願いつつ研修を終わりました。

(担当II総務課)

移住とニホンミツバチ

東京にいた時は「森林セラピーガイド」の資格を取得し、セラピーロードを歩くことでリフレッシュしていましたが、本物？天然の山はレベルが違う……！癒しどころか緊張の連続、連続です。どきどきしながら前後

東直しんとい、でもやらなきゃ。地元縁もゆかりも無い森が豊かになり、イノシシやシカも危険を冒さず生活できる。国有林内にミツバチと触れ合える場所を作り、今流行の農家体験に近い形で子どもたちがミツバチと触れ合い、その中でミツバチが果たしている役割を知り、自然の営みやあるべき姿を知ってもらいたいです。

左右キョロキョロ、足にヒルやマダニがついてないか注意しながら歩く。へびはいないか、マムシはいないか、そばの茂みから、ガサガサ音がする。キジかアナグマか、へびかタヌキか。

西諸県郡は地域面積93、147畝、うち森林面積66、178畝で総面積の71%を占め、民有林面積は23、309畝で民有林率35%と国有林に対する依存度が極めて高い地域です。森林と密接な関係にあるニホンミツバチは木々の受粉を助け、どんぐりを生み出す。その結果、森が豊かになり、イノシシやシカも危険を冒さず生活できる。国有林内にミツバチと触れ合える場所を作り、今流行の農家体験に近い形で子どもたちがミツバチと触れ合い、その中でミツバチが果たしている役割を知り、自然の営みやあるべき姿を知ってもらいたいです。

(宮崎県小林市在住)



林業実践体験研修の様子

「夏休み親子消費者の部屋」に参加 子供達に国の仕事や役割を紹介

8月5・6日、熊本地方合同庁舎において、「夏休み親子消費者の部屋」が開かれました。

これは、九州農政局主催の夏休み特別イベントで、国の行政の仕事や役割等について業務説明や庁内見学を通じ、多くの子供達の理解してもらうことを目的に、九州森林管理局を初め、九州地方環境事務所など7つの国の機関が参加しました。

各省庁のブースでは、さまざまな体験やパネル展示があり、九州森林管理局は、森林・林業に関するパネル展示やパンフレット



参加者で賑わうブース

木工教室では、スギ板を利用した「本立て」やヒノキの

枝を利用した「もっくん」作成に取り組み、少年団員と保護者等は協力しながら楽しい木工体験を行いました。

トを配布するとともに、木工教室では桜の小枝を加工したストラップ作りを行い、当ブースも大盛況で、参加した子供達は出来上がったばかりのストラップを大事に持ち帰っていました。今年で3回目となる本イベントは、来場者も延べ490人に達するなど、多くの子供や親子連れが訪れ、好評を得ました。
(担当 技術普及課)

緑の少年団が 森林・木工教室体験

【北薩森林管理署】当署及び始

良・伊佐地域森林・林業活性化センターの連携の下、伊佐市高熊山緑の少年団と本城緑の少年団並びに保護者等約60人を対象に伊佐地区緑の少年団交流集会を行いました。

当日は、伊佐市牛尾小学校から高熊山ヘイクズを行いながらのハイキングに始まり、山頂周辺において、「山の日」制定（国民の祝日）についての説明や木工教室を実施しました。

枝を利用した「もっくん」作成に取り組み、少年団員と保護者等は協力しながら楽しい木工体験を行いました。



交流会参加者で記念撮影

龍ダムフェスタに参加

【熊本森林管理署】迫間川（菊池市）の上流に位置する竜門ダムにおいて、恒例の「竜門ダムフェスタ」が開催され、当署も木工コーナー（火起こし体験など）で参加しました。

当日は晴天に恵まれたため、多くの家族客が詰め掛け、準備した本立ては午前中に在庫が無くなる程の盛況ぶりとなり、職員は汗だくになりながら指導していました。

千葉県から来たという家族は「夏休みの良い記念になりました」と満面の笑顔でした。今回初めてのこぎりに触れる子供達も多くいたようですが、短い時間での「木」とのふれあいであっても森や水の大切さをちょっとは感じてくれていたようです。



木工コーナーの様子

五ヶ瀬町小学生に森林教室

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町内4小学校の5年生25名を対象に五ヶ瀬ハイランドスキー場と、その周辺の波留国有林において、森林教室を行いました。

当日の天候は、雨の予報となっていました。小学生の願いが届いたのか、晴れ間も見れる天候となり、白岩山へ登山を行う

ことが出来ました。子供達は、白岩山周辺に生息する希少植物を観察したり、山頂からの眺望に歓声を上げたりしていました。

また、この地域は、シカの食害被害により下層植生が全く無い地域であるため、防護柵を設置して、希少植物を保護しており、児童達は植生が回復している状況を目の当たりにし、被害の深刻さを実感していました。

下山後は、スキーセンターの施設内において、森林の役割と働きについての講義を受け、最後はシカカードを使った森林の生態系の仕組みと、シカ捕獲の方法を学びました。



シカカードで勉強している様子

フォレスト等による 打合せ会を実施

【佐賀森林管理署】当署と佐賀県林業課は、民・国のフォレスト等による市町村森林整備計画の策定支援を目的とした「佐賀県内フォレスト等による打合せ会」を佐賀県林業試験場で約30名が参加して行いました。

この打合せ会は、平成25年度から年2・3回、路網作設や施業の現地検討会等も兼ねて行っています。今回は、佐賀県が実施した市町村への市町村森林整備計画策定支援に関するアンケート調査結果の分析と県・国による今後の具体の支援策について検討を行いました。

最後に市町への説明会開催や地域の森林づくりの参考とするため、「次回は国有林で現地検討会を開催する」ことを確認して、閉会しました。



打合せ会の様子

人のうごき

8月1日付森林管理局長発令
計画課経営計画官

加藤吉征（経理課主計係長）
経理課主計係長

煤本憲三（鹿児島署主任事務管理官）
管理官

鹿児島署主任事務管理官
平野耕一（熊本南部署主任森林整備官）
林整備官

長崎署主任森林整備官
祐野誠治（長崎署首席森林官）
熊本南部署主任森林整備官
松崎正一（長崎署主任森林整備官）
備官

鹿児島署事務管理官

稲員友樹（大分署森林官）
福岡署首席森林官

堀田信広（大分署首席森林官）
長崎署首席森林官
中島龍太（福岡署首席森林官）
大分署首席森林官
園田清隆（治山課部付）

大分署森林官
藤井佑介（大隅署森林官）
大隅署森林官
小室敷祐二（鹿児島署事務管理官）
理官

計画課部付

山下和也（計画課経営計画官）
経理課
下田悠介（宮崎北部署）
宮崎北部署
浦田紘伸（宮崎署）
（担当：総務課）



花の大きさで他のツツジ科の花を圧倒しています。

特に福岡県大ケ岳尾根沿いのトンネル状に咲き乱れるツクシシヤクナゲは有名です。

ツツジ科には漏斗状と鐘型の花があり、鐘型の花の代表はドウダンツツジです。

漏斗状の花は、パノラマアンテナの役目と同じく、日光を花の中央に集めて温度を上げて蜜を溶かして蝶などを呼んでいま

す。漏斗状の花の中に温度計を入れて測ると周辺よりも5度から8度高くなります。

チューリップでは20度以上の



温度差があります。

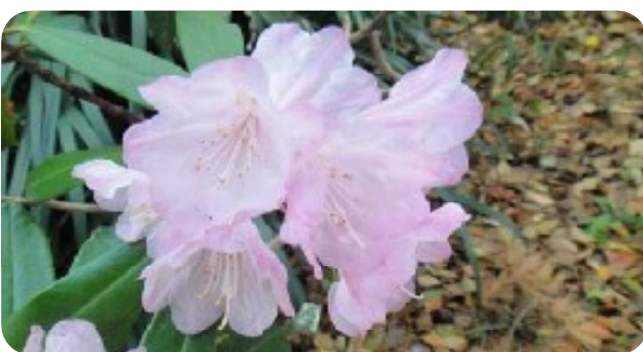
特徴は7数性（裂片7、雄しべ14本）で本州のシヤクナゲやヤクシマシヤクナゲは5数性（裂片5、雄しべ10本）ですの

で容易に判別できます。葉裏にびっしり張り付いているレヒロード状の毛も特徴です。

美しさに惹かれて山引きしたものを、庭園に植えても簡単に根付きません。

分布域が標高1300m以上で庭園との気温差が大きいことが原因のようです。

現在はバイオ技術によりたくさん



皆さんご存じのこととは思いますが、8月11日は「山の日」として、平成28年から新たに「国民の祝日」として制定されました▼山の日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日として定められています▼九州局管内でも制定を記念した各種イベントを行っていて、広報九州でも各署の取り組みやイベントを掲載しました▼今月も大分県の九重町長者原においてイベントが行われることになっていて、多くの参加者が見込まれているようです▼林野庁の情報誌「RINYA」の一口メモに、8月11日の外にも、各地では8月8日や11月11日を独自に「山」に関する記念日として様々なイベントや取り組みを行っているとの記事がありました▼

「八」の字が山の形に似ている、「一」の並ぶ様子が木の並び立つ様子に見えること、などがその理由ということでしたが、なるほどと感心させられた事を思い出しました▼来年からは「山の日」が祝日となり、なお一層多くの人が山や森林に親しむ機会が増え、国有林への理解が深まればと思います。（て）